

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第64号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

きな臭い地球温暖化現象

木庭元晴

およそ20年ほど前であろうか。この千里地理の巻頭に、西暦2100年には海面は2m上昇する、という文章を書いた。計算の根拠を列記したのであるが、世界ではまだこのようなテーマが学会やマスコミに載る時代ではなく、そういう考えもあるよ、という気持ちで書いた。二酸化炭素などの温室効果ガスの増大は認識されていたのであるが、研究費をこのテーマで取れるという時代ではなく、こういうテーマで研究する価値はあるよ、というような気持ちであった。

ところが周知のごとく、マスコミや政治でこのテーマが話題に上り、京都で1997年12月に開催されたCOP3（第3回気候変動枠組条約締結国会議）や一昨年にコペンハーゲンであったCOP15については連日、マスコミで大きな話題となった。世界の多くの人々は、石油などの化石燃料の燃焼の際に大気中へ排出される二酸化炭素が地球温暖化をもたらしていると信じるようになった。

COP15でも、昨秋名古屋で開催された生物多様性会議COP10でも、先進国は負担増を回避すべく動き、途上国は援助額の増大を求めた。いずれの会議でもアフリカ諸国の援助誘導の活動が目立った。会議場のあちこちで彼等の笑いがあつた。国連に係わる会議は斯くあらん、と思えたことであつた。国際会議でも当然ながら多数決であり、中国などの新興国が目立ってはいたが、およそ確定した政治地図にあってキャスティングボートを握っているのは彼等であつた。

新聞などを読むと、およそ社会正義というのがあって、「環境保全」の方向に進むのが正しいという前提がある。大規模の殺戮を伴う戦争であっても社会正義が前提となる。地球温暖化の議論は殺戮を伴うものではないから、有害性はそれほど高くない。しかも有限の化石燃料の消費を制限する方向であるから、化石燃料の消費量を削減することは、吾々の子孫のためにはいいことではある。だが、こういった会議にきな臭さを感じるのである。

昨年日本では、エコポイントなるものが席卷した。エネルギー効率の高い製品を購入す

ばポイントを貰えて他の製品を購入する資金になる。エコ政策の一環としてマスコミでも概して肯定的であった。不言もがなであるが、この政策には問題がある。一つは、一部の製品の製造企業と小売業者に多大の税金が使われたこと。もう一つは、通常の購入サイクルを短縮させたために、不要な資源の消費が増大したことである。似非エコである。

ここ数年、特にトヨタのハイブリッドカーが持てはやされた。ハイブリッドカーは、その名の通り、エンジンカーに比べてモーターなど部品数が多くなる。モーターを動かすリチウムイオン二次電池に関するトヨタの補償期間は5年または10万km。パソコンのLi電池が2年ほどでAC電源が離せなくなるという体験からすると充電効率はどんどん劣化してゆくのであろう。ハイブリッドよりは軽に載った方が何倍もエコである。これからは電気自動車という方向性がある。これはハイブリッドカーに比べたら余程、エネルギー効率はいいが、電気は発電所からもたらされるものである。吾が関西では関西電力が供給するが、発電量の半分は安全とはまだまだ言えない原子力である。

2009年に、『地球環境問題の基礎と社会活動』という本を出版した。人々がマスコミからの情報を批判的に捉えることができるようにするためである。現在、千里山キャンパスの山の下で、この本を使って「環境と社会」（春学期）というリレー授業を実施している。過去2年間、伊東先生にもご協力頂いた。この授業は関西大学を卒業した人々が社会人として環境問題を考える基礎を理解してもらうためである。

先の本の第2章に地球温暖化のメカニズムについて基礎的な情報と考え方を示している。二酸化炭素が増えれば増えるほど、地球が温暖化するっていうマスコミや研究者の宣伝があるが、それはかならずしも確かなことではない。すでに対流圏では二酸化炭素が増えても温室効果は増大しない。すでに二酸化炭素による温室効果は飽和しているのである。真鍋淑郎が成層圏でも二酸化炭素の増加の影響が生じるとしたモデルがあり、現在のシミュレーションはそのモデルに基づいている。ただ驚くべきことに、実際は、二酸化炭素が増大しても温室効果が増大しないから、まだ余裕のある水蒸気の温室効果の増大を想定して計算されているということである。（本学教授）

Contents

Pages 1.....
 巻頭言
 きな臭い地球温暖化現象
 木庭元晴

Page 2.....
 学窓から
 元地理学女子の近況
 福田尚子

秋の日帰り巡検
 私の日帰り巡検の感想
 松岡美佳

Page 3.....
 実習調査報告
 いいだは、なかなかいいだ。
 小西雅人

Page 4-5.....
 研究ノート
 大阪府安威川流域に見られる1960年代以降の都市化と水害リスクの増大
 熊 鷲

Page 6.....
 院生・学部生の業績
 (2010.1~2010.12)

Page 7.....
 教室だより

Page 8.....
 随想
 政治に振り回された越中五箇山
 森田 勝

Page 2-3,6-7
 卒業生・修了生からの一言

2010年度 卒業生・修了生 からの一言

飯野栄寿

ようやく卒業します。大学生生活で、地理学教室の仲間は一生涯ものです！先生、地理っ子、巡検や調査で出会った人、みなさんに感謝しています。どうもありがとうございました。

井上ひろほ

地理学を通して普段お話できないような方々と出会うことができました。今回とも仲良くなり、3年間とても楽しく過ごすことができました。先生方には勉強、就職、学生生活について、とても親身にお話を聞いていただき、大変お世話になりました。地理大好き！

井村 幸

関西大学地理学専修に入り、フィールドワークなどを通して、様々な場所を訪れたことは、私の学生生活において、本当に良い思い出となりました。地理専修だいすき ☆☆☆

岩井友里

一人では行かない場所に行き、日常では経験できないようなことに触れ、自分の引き出しが増えたように思います。先生方、地理学専修の皆さん、本当にありがとうございました。

植田恵里香

大学生生活では出会いに恵まれた4年間を送ることができました。この時期に地理学教室に入り、4回生の仲間と一緒に奄美大島の調査など多くの経験ができて本当に良かったです。先生方、先輩方、調査でお世話になった方々、そして大好きな仲間たち！本当にありがとうございました。

岡村香寿美

地理学での授業は「本当に文系？」とよく周りの人たちに驚かれました。巡検や実習調査など、地理学ならではの経験は、大変な面もありましたが、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。

学窓から

元地理学女子の近況

福田 尚子

すっかり卒業してから年月が過ぎてしまいましたが、今でも歴史地図帳なるものを身近において、テレビでどこにあるのかわからない地名が出てくると、つい開いて見入ってしまいます。なぜ地図を見るのが楽しいのかと自分なりに考えると、基本的に「地図」は「事実で嘘がない」からです。事実に基づいて、自分なりに想像をふくらませることができるのが地図の魅力のように感じます。

そんな元地理女子は、現在島本町にあるS化学社の開発研究所（6月に異動）に勤めています。勿論、研究所勤務といっても研究が仕事ではなく、人事・総務のマネージャーとして、約300人の従業員の採用、教育、昇格、異動、退職といった様々なキャリア&ライフイベントに関わっています。まだ不慣れですが、周囲からは「当然できるでしょ！」という目で見られているので、少し背伸びの毎日です。

こんな風によく人と人事総務のプロみたいです。これまでのキャリアの半分以上は住宅の設計関係です。住宅会社に入社したのは、人文地理学から発展して「都市開発（まちづくり）」に取り組んでみたいと考えたからです。でも、

住宅部門で最後についたリフォームの仕事が自分の目指したい働き方に合わず、社内の人材公募に応募して「人材開発」部門に社内転職しました。そこで教育研修の仕事を約7年間経験したのち、現在の「開発研究所」に（今度は普通に）異動になりました。

ここで振り返ると、あまり関連性のないキャリアに共通するのが「開発」の文字です。自分では真面目にコツコツのつもりでしたが、「開発」続きで変化の多いキャリアを考えると、自分で新たな価値を生み出せるような仕事をつけるように、無意識に小さな意思決定を繰り返してきたのだらうなあと感じます。

現状に不満をもっている人の中には、「周囲の人が勧めたからこうした。」とか「会社が全部決めたので、自分では何も選択してない。」という人もいますが、「何もしない、何も言わない、ただ従う」というのも選択の一つです。意思決定の積み重ねで人生が成り立っているだとすれば、後半の人生は自分の納得がいく選択をして、自分らしい嘘のない「人生地図」がつくれたらなあと思う今日このごろです。

秋の日帰り巡検

秋の日帰り巡検の感想

松岡 美佳

巡検では千里中央に集合しました。まず、大阪の副都心といわれる千里中央は、万博が開催される1970年に北大阪急行が開通されて、千里中央駅ができたとのことで、この年のとても多くの人でにぎわった様子を想像しました。千里ニュータウンには、この北大阪急行のほか、1967年には阪急千里線が北千里まで伸びました。それまでは、千里山駅までだったのが、南千里駅→山田駅→北千里駅と北進し、2年後の1969年には人口10万人を達成して、千里ニュータウンが完成しました。千里ニュータウンは、おおよそ10年弱で人口がこんなに多くなったことを知り、びっくりしました。

千里中央の駅には何回かきたことはあるのですが、久しぶりに訪れて、今回のようにじっくり見るのは初めてでした。まず、駅を出たらとても大きなショッピングモールのような建物があり、家族連れが多く訪れていました。また若い人たちは少なく、やっぱり若い人たちは梅田や難波や天王寺などのほうが多いのだ、との印象でした。そしてオフィスゾーンの方へ移動して、住友信託銀行千里ビルのあたりや京都銀行の周りなどをみてあるきました。日曜日で雨が少し降っていたので、人通りは少なかったです。これらのビルはとても大きな建物で、最近では高層住宅に変化しているところもありました。

次に、バスで新御堂筋を北上して、新御堂筋沿線の箕面（新船場）地区に移動しました。箕面地区は千里中央と連携できる高度な都市的土地利用が可能のため、新都心地区として発展してきたところでした。ショッピングモールなどもあり、最近まち開きした新市街地や大きなショッピングモールなども見学しました。

ショッピングモールや大型のスーパーができて、やはり商店街の衰退が進んできたことやそれが商店主の高齢化や後継者不足などが原因で経営持続力の低下が原因となっていること、などを痛感しました。その後訪れた箕面駅周辺には、現在11の商店会が存在しています。これからのたくさんの問題が残っていますが、こういった商店街も是非残して欲しいものと思います。最後に滝道に行きました。とても坂がきつかったですが、渓谷は大変きれいでした。水もすごく澄んでいました。紅葉の季節には少し早かったのですが、少し紅葉で色づいていて、しばらくするともっときれいになるのだなあと思いました。

今回の巡検で私は自分が住んでいる大阪について、詳しく知れたのが何よりでした。また、自分が住んでいる町ももっとしっかりみて、その良さを知っていきたいものと感じました。

(本学2回生)

実習調査報告

いいだは、なかなかいいだ。

小西 雅人

5月以来、2度目となる飯田市での調査では、飯田市の多くの魅力に気付くことができた。私たちが3泊4日の間、宿泊した砂払温泉旅館では、五平餅や馬刺しなど普段口にするもののない特産品をいただき、豊富な種類の温泉も楽しめた。その中で、私が最も飯田に魅力を感じたのは、自然景観の素晴らしさである。今回の巡検では、自然班（天竜峡周辺の地形・水害）、観光班（天竜峡の観光）、農業班（下久堅野沢の農業とグリーン・ツーリズム）、城下町班（飯田城下町の形成）、市街地班（市街地活性化計画の効果）、生活行動班（市民の行動・商業）、工業班（半生菓子工業）の7つの班に分かれて調査を行っていたが、私は自然班として天竜川沿いを歩いていた。その際に目にした、そびえる山々をバックにした雄大な天竜川の姿には、なんともいえぬ自然の良さを感じ、私はカメラのシャッターを切ることに夢中になった。

自然班の調査内容は、伊那地方にみられる段丘地形や天竜川の水害の歴史が中心で、1日目は飯田市の図書館で資料を探し、2日目以降は実際に調査範囲を見て回った。段丘に特徴づけられる地形は予想以上に高く、迫力があり、見

ているだけでも楽しめた。昭和36年におこった水害、36災害の水位を示す石碑は衝撃だった。写真などでは水害の様子は見ていたものの、実際に見てみると、「こんな高さまで水が来たのか!」と思わずにはいられなかった。3泊4日のうち3日間をずっと外を歩き続けた自然班であったが、その道中様々なことがあった。それは例えば、道に迷っていたときに地元の人が親身になって道を教えてくださったことや、何年かぶりにアマガエルをみて驚いたことなど、とりわけて大きなことではなかったが、座学では感じることでできないフィールドワークという地理学の醍醐味を最大限に味わうことのできた実習調査だった。

最終日には飯田市のリング並木の前にあるレストラン“Natural Kitchen TESSHIN”で昼食をいただいた。南信州の食材を取り入れたシェフこだわりの料理はどれもおいしかった。

そして、実習が終わり、11月上旬現在、私たちは飯田巡検の調査報告書を作成しているところである。人が作った報告書ではなく、私たちが作る報告書という意味で、本の完成がとても楽しみである。 (本学3年生)

上地真由
地理学教室では色々な経験をさせて頂きました。特に奄美大島の実習調査では、観光班として土産物屋、ダイビングショップの方にお話を伺い、地元の方と交流ができ、フィールドワークの楽しさをより知ることができました。地理のみんな、大学院の先輩方、先生方、本当に3年間ありがとうございました。

河野 茜
せっかく大阪に来たのに、地理では結局地元のことがばかり研究してしまいました。でも地元に着がえしたのだから故郷を離れたからこそぞとします。ユニークで素敵な先生方と仲間とは長い付き合いをしていきたいです。

鈴木隆洋
地理学教室でまったり過ごした4年間は、この専修に入って本当によかったと感じさせてくれました。そして何よりもみんなに出会えたことに心から感謝しています。ありがとうございます。

竹下裕隆
同期の皆と過ごせた日々は、わずか2年間でしたが、かけがえない思い出を数多く作ることができました。とくに、奄美大島での充実した数日間は一生涯忘れません。本当に、ありがとうございます。

土井康子
地理学専修に入ったからこそ出会えた方々、行くことのできた場所、学べたこと…今振り返れば、濃い三年間を過ごせたなあと思います。先生方、先輩や同期の皆さん、本当にありがとうございました。

中岡陽香
友人にも恵まれ、私生活共に充実した4年間をおくれました。奄美での調査は大学生活の中でも一際心に残る良い思い出です。みなさまには本当にお世話になりました。地理学専修であったことを心から誇りに思います。



天竜川を背にして自然班のフィールドワーク

大阪府安威川流域に見られる1960年代以降の都市化と水害リスクの増大

熊 鷹

はじめに

都市域の拡大過程で山林や農地は宅地や工場などに変化してゆく。このような土地利用の変化や下水道の普及に伴って、降雨の流出率は増加してきた。この急増する流出水が狭い河道に集中するため、洪水氾濫の危険性は高くなってきた。

本報告の研究地域である茨木市は京阪神大都市圏内にあり、戦後大阪の衛星都市として発展してきた。その過程で近郊の丘陵林地が削られ、低平な農地が宅地・商工業地域化してきた。辻（1960）は都市化そのものが水害の被害を拡大するという観点でこの地域を含む淀川流域の研究をした。このほかにも都市化と洪水災害に関わる既存研究は数多く行われてきた。これら既存研究によると、大規模な水害の多くは戦後に発生しており、1960年代前半頃までは大型台風や記録的な豪雨による水害がよく発生した。一方、1960年代後半以降は、築堤やダム建設などの治水事業が進展した。また、この時期に大きな台風や豪雨の発生が少なく、水害の人的被害は少ない。1960年代以降都市化が進展するとともに、住居に適さず開発されなかった極低湿な農地も都市化されていった。それゆえ、1960年代以降の北摂の河川のうちもっとも多くの水害をもたらした安威川の流域での都市化と水害リスクの増大について報告する。

1. 昭和以降の主な水害

安威川は過去に何度となく氾濫している。沖積平野からなる低地部は多く河道を持ち、過去幾度となく水害の被害を受けてきた水害常襲地域である。1932年7月8日の豪雨では、茨木川の堤防が決壊し、家屋が浸水、数百ヘクタールの農地が被害にあった。1934年9月21日には、室戸台風が近畿地方をおそった。市内各地で河川が決壊し、校舎や一般家屋、農地が浸水した。茨木高等女学校の校舎が倒壊し、死者6名、重傷者10名を出した。この水害を契機として、安威川と茨木川の合流工事及び、計画高水流量の改修工事が行われている。この工事により、茨木川河道は廃止され、現在は地下に水路が通っている。戦後は1950年9月3日に、ジェーン台風が京阪神を直撃した。茨木市では40戸が全壊、44戸が半壊し、37haの農地が冠水した。この災害では大阪府下に災害救助法が適用された。ところが、1966年7月豪雨と

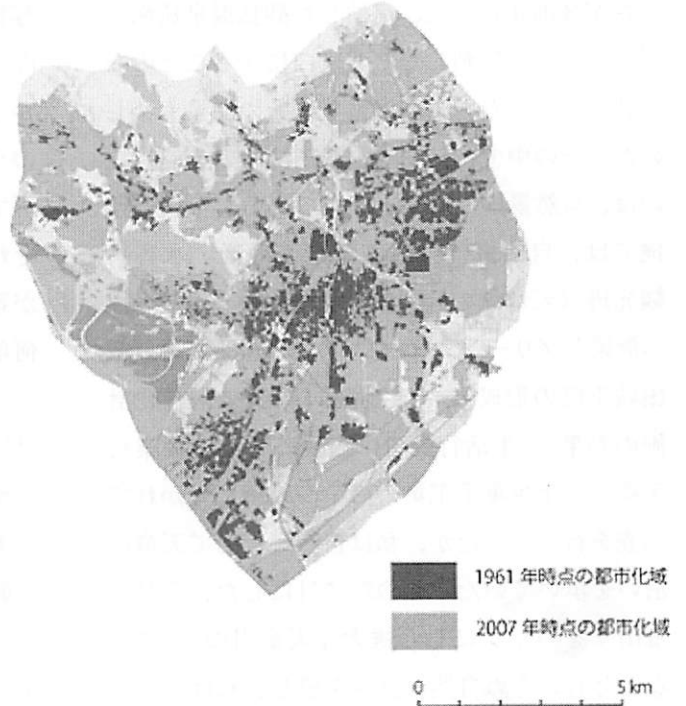


図1 茨木市南部域の都市化

1967年北摂豪雨の被害を受け、100年の豪雨にも対応できるような改定が行われ、神崎川合流点で1750毎秒立米を基本高水流量として治水計画が実行されている。

2. 安威川流域の都市化

安威川流域は1960年代以降都市化が進展するとともに、近郊の丘陵林地が削られ、低平な農地が宅地・商工業地域化してきた。都市化域を比較するために、1961年と2007年時点の都市化域図を作った。図1を見ると、主に北東から南西に伸びる最も濃い灰色のところは1961年の1:3000都市地図を使って現在の1:2500数値地図に街区単位で都市化域を落としたものである。次に濃い灰色で最も広い面積を占める部分は、現Google map（2007年現在に対応）に示された都市化域である。重ねてみると、1961年代の宅地・工業用地は洪水の危険性の少ない旧河道沿いなど高燥地に立地している。しかし、2007年では、宅地・工業用地の都市的土地利用は既成市街地を大きく越え広がっている。安威川と茨木川の合流点に宅地が開発されるなど、地形条件を無視した都市化が洪水リスクを高くしている。

3. 洪水シミュレーションの結果と都市化の関連

対象地域は大阪府安威川流域下水道の処理区4382ha

表1 雨シミュレーション例

名称	年月	総降雨量 (mm)	時間最大降雨 量	継続時間
茨木豪雨	1967年	215.0	48.0	15時間
豊中豪雨	2006年8月	116.0	103.0	2時間
岡崎豪雨	2008年8月	263.5	146.5	11時間
モデル豪雨	—	50.0	50.0	1時間

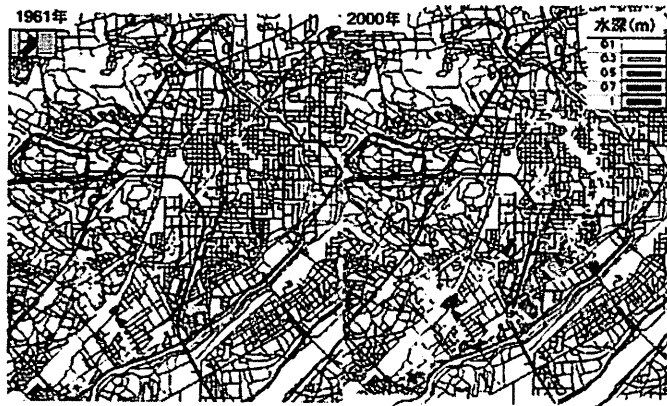


図2 岡崎豪雨想定シミュレーション結果

であるが、実質の計算面積は2906haである。土地利用対象年度は1961年と2000年である。比較豪雨は茨木豪雨、豊中豪雨、岡崎豪雨とモデル豪雨である(表1)。

1961年と2000年の各ピーク流出の水深を求めるシミュレーションを行った(尾崎, 2009)。図2は最も被害が出た豊中豪雨のものである。この図を参照しながら、位置を確認して頂きたい。茨木豪雨を想定したもので見ると、2000年には竹橋町、目垣一丁目、中央卸売市場が新たに0.1m深を示した。特に島四丁目では1m深を示した。豊中豪雨を想定したもので見ると、竹橋町、目垣一丁目、中央卸売市場、島四丁目だけではなく、旧市街地にも水深0.1m域が広がっている。中央卸売市場が新たに1m深を示した。岡崎豪雨を想定したもので見ると、1961年では旧市街地、島四丁目と中央卸売市場も0.1m深が見られるが、2000年では旧市街地においても0.1m深の領域が広く見られる。特に目垣一丁目、真砂二丁目と島四丁目の水深が非常に高くなった。最後に50mmで1時間降雨の想定結果では、ほとんど変化はないが、2000年には千里丘は0.7m深が見られる。時間雨量50mm/hrを超えた場合は流出率の変化は無くなるという説があるが、この結果によると、時間雨量が大きければ、それに応じて流出量が大きくなるのが新たにわかった。

丘陵地、谷底低地の開発利用によって、森林の伐採、耕地の宅地化、舗装道路、側溝等の建設などが行われる

と、地表面上に貯留されたりあるいは地中に浸透したりする雨水が少なくなって、流出率および流出速度がともに増大する。そのため、その流出水が集中する低地では、内水氾濫が生じやすい。開発による環境変化が急速な大都市域では、排水施設の能力がその変化に追従できなくて、流入量と排水量の不均衡が生じやすい。また、気候変化により、ゲリラ豪雨と呼ばれている短時間豪雨が頻繁に発生し、内水氾濫の危険性がより高くなると考えられる。

おわりに

本研究では、1960年代から現在までの安威川流域の都市化進展状況と水害発生状況との関連を明らかにした。都市化の分析から、人口急増と土地利用変化の面から安威川流域の都市化が進んでいたことをわかった。1969年と2000年で世帯数を比較すると、北部の山間部と中部の旧市街地ではほとんど変化が見られず、淀川沿いの低湿な低地で急増している。総体的に、旧集落が洪水の危険性の比較的少ない川沿い高燥地に立地しているに対して、新集落はこの点にほとんど無関心のために、水害危険率が高い。また、2000年の世帯数密度階級区分とシミュレーションの結果に密接な関係があることをわかった。世帯数密度が低い山間部と丘陵地では、ピーク流出の水深は浅く、世帯数密度が高い平野部は水深1mに達する部分が出現した。時間雨量が一定値(およそ時間50mm)を超えた場合には土地利用の流出率の違いは現れなくなるとする過去考えられてきたが、シミュレーション結果をみると、時間雨量の増大と浸水リスクの増大は正のトレンドが認められた。

シミュレーションの結果から、2000年岡崎豪雨にJR茨木駅付近の西側の浸水高が大きく、それは大まかな地形の傾向として、逆傾斜になっており、浸水域となっている。平成11年以降には宅地化がさらに進み、安威川左岸(目垣一丁目)、竹橋町、島四丁目と真砂二丁目では浸水深がより大きくなっている。

(本学文学研究科大学院・博士課程前期課程)

引用文献

- 尾崎 平、2009. 集中豪雨による内水氾濫の危険度評価と対策効果の定量化. 第46回下水道研究発表会講演集、46、pp.383-385.
- 辻 文男、1960. 淀川流域の宅地化と洪水災害. 人文地理、Vol.18、No.4、pp.47-71.

奄美では暴風波浪の中砂浜で調査を敢行し、卒論では猪に怯えつつ山を登り、船を登って資料を収集するという今までにない貴重な体験ができました。そして先生方や地理の皆さんのおかげで無事卒業することができます。ありがとうございました。

地理学専修には転入という形でしたが、同期の皆さん、先生方、暖かく迎えていただき、ありがとうございました。奄美大島の実習調査は学生生活での貴重な思い出です。人生一度、一生挑戦。

地理はアウトホームで居心地良く授業の度にすごく楽しかったです！先生方もメンバーも院生の先輩方にも恵まれて、みんな大好きです。のびのび過ごす事ができ幸せだなと思います！皆様お世話になりました。

地理学での学びも遊びも、全てが充実していました。地理の勉強から、一つのことを追究する豊かさを知りました。実践は出来ませんでした。これからの目標にします。大好きな先生方、先輩方ありがとうございました。

様々な場所に行けて楽しそうという理由で選んだ地理がこんなに楽しいとは思っていませんでした。先生方をはじめ、たくさんの方にお世話になりました。地理を通して出会えた人達に感謝の気持ちでいっぱいです。

大学で過ごした5年間は何にも代え難い財産となりました。素の自分を受け入れて下さった皆様方には感謝の気持ちでいっぱいです。将来の大きな夢に向かって、一生勉強&開拓精神を持ち続けて頑張ります！

去年の一年、修論の作成をきっかけに、いろいろな人と出会って、たくさんアドバイスを聞くことができて、すごく勉強になりました。今年の3月卒業し帰国しても、引き続き頑張ります。

【著書分担】

Nguyen Thi Ha Thanh, "Nghiên cứu biến động sử dụng đất và một số yếu tố kinh tế xã hội làng Địa Linh dựa trên phân tích các tư liệu địa chính cũ 1935-1996" (The transition of Land Use and Socio-economic Factors of Dia Linh Village, based on the Analysis of Old Cadastral Records). Nguyen Quang Trung Tien and Nishimura Masanari (ed.), *Cultural and History of Hue from the Surrounding Villages and Outside Regions*, Thuan Hoa Publishing House, Vietnam, 2010, pp.29-50. (Vietnamese)

Nguyen Thi Ha Thanh (野間晴雄訳), 2010. ヨーロッパ人のベトナムにおける貿易—平和から戦争へ: 16世紀~19世紀—. 野間晴雄編『文化システムの磁場—16~20世紀アジアの交流史—』, 関西大学出版部, pp.93-114.

松井幸一 2010. 奄岐における在と浦の集落形態と交流. 野間晴雄編『文化システムの磁場—16~20世紀アジアの交流史—』, 関西大学出版部, pp.253-289.

【論文書評】

逸本茉莉子 2010. 新刊紹介 福田アジオ著『日本の民俗学「野」の学問の二〇〇年』, 史泉 112, pp.20-25.

上野 裕 2010. 近代京都の都市計画と都市形成, 史泉 111. pp.30-44.

増田 妃 2010. 新刊紹介 坪井善明著『ヴェトナム新時代—「豊かさ」への模索』, 史泉 112, pp.20-26.

松井幸一 2010. 那覇市壺屋集落における空間構造の特性. 歴史地理学 52-3, pp.30-48.

Nguyen Thi Ha Thanh, 2010. "Hue City in the Transition of Urban Composition During the Rise and Fall of the Nguyen Dynasty in the 19th Century". 東アジア文化交渉研究, 3, pp.529-544.

Nguyen Thi Ha Thanh, 2010. Conversion of Agricultural Land and its Impact on Peasants in Hanoi Suburbs during Rapid Urbanization: A Case Study of Me Tri Commune (急激な都市化過程におけるハノイ近郊地域の農地転用とその農民への影響: メーカー社を事例に). 人文地理 63-2, 採録決定済み.

【学会発表】

逸本茉莉子 2010. 伝説・民話の場所性についての試論—関門海峡と山口盆地を事例に—. 関西大学史学・地理学会 2010 年度大会.

上野 裕 2010. 戦前期京都の土地区画整理事業と都市形成. 2010 年度東北地理学会春季大会.

上野 裕 2010. 軍港都市舞鶴の都市形成. 2010 年度近畿都市学会春季大会.

Nguyen Thi Ha Thanh, 2010. "地簿資料分析から見えるディアリン村の景観変化—1935~1996年を中心に—" (The Transition of Human Landscape of Dia Linh Village from 1935 to 1996 Based on the Analysis of Old Cadastral Records). Academic Forum of Vietnamese Relation.

齋藤鮎子 2010. 山東餃子の中国東北部への浸透と日本への招来について. 関西大学東西学術研究所「比較文化研究班」研究例会・科研「東アジア沿岸」研究集会.

董 振江 2010. 中国東北部における日本型稲作の導入と変容—19世紀以降の松花江流域を中心に—. 関西大学東西学術研究所「比較文化研究班」研究例会・科研「東アジア沿岸」研究集会.

董 振江 2010. 中国東北部における日本型稲作の導入と変容—19世紀以降の松花江流域を中心に—. 関西大学史学・地理学会 2010 年度大会.

増田 妃・野間晴雄 2010. Functions of Hanoi Urban Landscape for Youth Culture: A Comparative Study by Japanese View. Southeast Asian Geography Association Conference "Understanding the changing space, place and cultures of Asia". Hanoi, Vietnam.

松井幸一 2010. 那覇市壺屋集落における空間構造の特性. 地理学研究会第 97 回例会.

【報告書】

Nguyen Thi Ha Thanh, 2010. "The Urban Development through Spatial Usage of Hue City, Vietnam in the 19th Century", Conference proceeding of ICHG (The 14th International Conference of Historical Geographers), 2010, pp.158-159.

教室だより

■地理学・地域環境学実習調査

平成22年10月12日(火)～15日(金)にかけて長野県飯田市で実習調査を実施した。指導教員は、伊東理・野間晴雄。TA 1名、院生4名、3回生25名、ベトナムからの留学生1名の33名で実施。滞在中は天気も良く、無事に実習を終えることができた。調査内容は自然、農業、観光、地場産業、城下町、中心市街地、生活行動、交通などの項目で、3月に報告書が刊行予定。詳しくは、下欄を参照。

■秋の日帰り巡検報告

平成22年10月31日(日)教室の日帰り巡検が開催された。悪天候ではあったが、教員3名のほか学部2回生、3回生、院生、OBを含め約50名で、大阪府の千里中央と箕面を巡った。
コース：セルシー広場—新千里西町(バックオフィス、その住宅転用)—〈昼食〉—船場繊維卸商団地—visola(ショッピングセンター)—箕面駅前商店街—箕面滝道(自然、植生)—阪急箕面駅(現地解散)

■12月の地理学研究会例会

平成22年12月11日(土)15時より地理学研究会の例会が開催された。3回生によって飯田市実習調査の報告がされたのち、松井幸一「那覇市壺屋集落における空間構造の特性」、國米厚臣「地理も積もれば『水』となる—広報誌『水ものがたり』を事例とした大阪市交通局による利用客拡大への取り組み—」、木庭元晴「地球温暖化システム考」の講演がおこなわれた。例会終了後は以文館の食堂で懇親会が開催され、お互いの親交を深めた。

■教員外国出張

野間晴雄：2010年9月3日～9日 科研費による遼東デルタ・中国東北部の稲作文化複合の研究調査(遼寧省大連市、盤錦市、黒竜江省哈爾濱市ほか)。松井幸一、Nguyen Thi Ha Thanh、Grung Roshan、齋藤鮎子、向井利之、董振江、増田妃の7名の院生が研究協力者として調査に加わった。2011年2月24日～3月2日 GCOE 経費によるインド茶関係史料の調査(コルカタ)。

伊東理：2011年1月23日～2月3日 科研費によるニュージーランドの中心地と都市交通

に関する調査(オークランド市)。2011年2月18日～24日 私費によるオーストラリア・シドニー市での中心地と都市交通の調査および大学院生の現地指導。2011年3月13日～30日 科研費によるイギリスコアシティの中心地とその再生に関する実態調査(バーミンガム、ノッティンガム、リーズ、ニューカッスル、ロンドン市ほか)。

■博士学位論文の提出

堀内氏が2010年5月に博士学位論文を提出し、2010年7月21日に一般公開形式の公聴会・審査が実施され9月17日に学位が授与された。

松井氏・ハータイン氏が2010年11月に博士学位論文を提出し、2011年1月21日に一般公開形式の公聴会・審査が実施された。3月23日に学位が授与される予定。

<課程博士>

堀内千加：日本の大都市における人口と住宅の地域的動向に関する地理学的研究—1990年以降を中心に—(主査：伊東理)

松井幸一：日本の都市・村落空間における軸線形成と空間構造(主査：高橋誠一)

Nguyen Thi Ha Thanh : Spatial Organization of Hue Imperial City and its Adjacent Commercial Centers since the 19th century: A Comparison with Shuri Castle Town, Ryukyu Kingdom (主査：野間晴雄)

■外国研究者の訪問

Tran Duc Thanh 氏(ベトナム国家大学ハノイ校社会科学大学観光学部准教授)が京都で9月26日に開催された国際グリーン・ツーリズムシンポジウム実行委員会(事務局：NPO法人日本都市農村交流ネットワーク協会)主催の「アジア・グリーン・ツーリズムの展望—日中韓・ベトナムの国際交流を考える—」で講演するため、2010年9月23日～28日まで大阪・京都に滞在された。それに先だって9月24日には、関西大学の地理学・地域環境学専修を表敬訪問され、大学院生・教員向けに「ベトナムのエコツーリズムとグリーンツーリズム」(英語)の講演をされ、その後、大学院生有志、野間教授とアサヒビール吹田工場、西尾家を見学して交流を深めた。

松田邦廣
他大学から来た私は、とまどいのオンパレードでした。慣れた頃にはもう卒業・・・2年という歳月はあらためて短いと実感しました。ですが、関西大学地理学教室に在籍していた2年間は得るものが多く、今後の財産として活かせると思います。本当にありがとうございます。

向井浩之
私は他の大学から来たので、入学前は不安でした。しかし、先生方や仲間達がとても優しく、また学習・研究環境もとてもよく、極めて有意義な学生生活を送りました。これからも関大の地理学教室の経験を糧に、様々な事に取り組みたいです。

齋藤鮎子
6年間お世話になりました。あっという間の6年でした。地理学を学びたく、大学進学を決意してから大学院の卒業まで、本当に良い学問・指導者・友人に出会えて、心の底から幸せだと思っています。地理学を学んだことが、今の私の自信と誇りになっています。先生方、ありがとうございます。

堀内千加
ご指導いただいた先生方、励ましの言葉をくれた友人達、その他にもたくさんの方に支えられ課程を修了することができました。それらすべての方に言葉に尽くせない感謝の気持ちを捧げます。

松井幸一
講義や巡検・調査などで様々な地域に行き多くの事を学ぶことができたのはすばらしい経験でした。今後は学んだことをさらに活かしていきたいと思っております。ありがとうございます。

グエン・ティ・ハ・タイン
ベトナムから日本に来て、学術的にも人間的にも成長できたと思います。この三年間に、関西大学の地理学科で地理調査方法、日本の地理と歴史のことをより専門的に学ぶことができました。そして、たくさんの友だちと交流することで、日本語も少し話せるようになり、とても嬉しいです。それらはすべて先生方、先輩方と友だちのおかげです。ありがとうございます。

長野県 飯田市の地理 (地理学・地域環境学実習報告書 35、2010)

はじめに

- I 地域の概観
- II 天龍峡周辺の地形と水害
- III 農業とグリーンツーリズム
- IV 飯田市の観光
一天龍峡の繁栄から衰退と再生への取り組み
- V 飯田市の半生菓子工業

- VI 飯田城下町の空間構造とその変容
- VII 中心市街地の活性化とまちづくり
- VIII 飯田市の郊外化と中心市街地の再生
- IX 飯田市における公共交通の現状と将来の方向
- X まとめと提言

随想

政治に振り回された 越中五箇山

森田 勝

中学1年の4月、初めて5万分1地形図（大阪西南部）を見た時の感動は忘れられない。その少し前に自宅から3 kmばかり離れた村へ行き、言葉の違いにカルチャーショックを感じていたのだが、その村をも含めて、その地形図にはとてつもなく広い地域が詳しく表現されていた。こんな文化があるのだと嬉しさと驚きを感じた。その後、様々な地形図に接することが多くなったが、その中でなぜか南大東島と越中五箇山に興味を感じていた。

そのひとつ越中五箇山には大学に入るかなり前から行ってみたいと思っていた。でも地形図で見るととてつもなく等高線の密度が高く、これは到底行けない所だと怖気づいていた。しかし、合掌造民家の特異さや、五箇山出身だという知り合いの君から聞いたのだが、祭礼時に1つの獅子を十数人で操るといふ獅子舞に興味があった。

勇を奮って30年ばかり前に地形図を片手に初めて五箇山を訪れた。城端駅からタクシーで平村の下梨に向かった。樹木が少なく露出した岩が目立つ山道に入ると、落石注意の標識がやたらに目につき、車はゆっくりと上っていく。運転手さんに言われ、谷底をみると転落した車が何台も目に入る。いずれも比較的新しい車だ。地形図には人喰谷と書いてあった。分水界となる細尾峠の短いトンネルを抜けると五箇山だった。樹木の多い険しい山々が幾重にも重なっている。はるか眼下には庄川らしき川も見える。驚くほど傾斜のきつい山地斜面を見ていると、こんな所に人が住んでいるのかと、胸にせまってくるものがある。城端から下梨まで約1時間かかったが、その後、国道305号線に長さ3 km余の五箇山トンネルが開通し、今では20分余しかかからない。

これから何度五箇山を訪れたらだろうか。ある時、村役場で聞きたいことがあったが、あいにく担当者は日帰り出張中とかで会えなかった。近くの旅館に投宿したが、夕食時にその役場の職員が訪ねてきた。三笑楽という旨い地の酒を飲みながら話をするうちに、銚子は10本を超えていた。この職員さんだけでなく、話を聞いた様々

な村人からも、雪に閉ざされ外界との交通が遮断される冬の厳しさと、歯止めの利かない人口流出のことを聞いた。

少し五箇山の歴史を調べてみた。貧しいながらも何とか自給していた村の生活を変えたのは、近世の加賀藩であった。藩の流刑地、塩硝生産地とされたことから外界との遮断が求められ、道路整備もままならず、村の経済はこれに振り回された。明治の廃藩後は新たな収入源を探さねばならず、窮余の策が北海道への屯田兵派遣とそれに続く開拓移住であった。昭和になると、さらには満州開拓などに行かざるを得なくなった。いうまでもなく、終戦時に満州で置いてきぼりにされ、五箇山からの開拓民の3分の1は現地で亡くなっている。第二次大戦後は拳家離村の波に巻き込まれ、今では50%近い老人人口率に悩まされている。

五箇山トンネルの開通や、1995年の合掌造民家群の世界遺産指定による観光客増加はあるが、隣の岐阜県白川村のような人口増加には繋がらず、今も人口の流出が続いている。五箇山で親切にいただいた人々を見るにつけ、近世以来、日本の政治に振り回され続けている姿に憤りさえ感じている。

（堺女子短期大学名誉教授・本学非常勤講師）



旧上平村平沼地区の合掌集落（1987年頃）

千里地理通信 第64号

2011年3月19日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35

関西大学地理学・地域環境学教室内

編集担当：伊東 理 廣田琢也

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

e-mail：moto@kansai-u.ac.jp

URL：http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/

~moto/KU_Geography/index.html

郵便振替：大阪00970-4-81149